

令和5年度花巻市石鳥谷地域協議会第3回会議 会議録

【日 時】 令和6年2月21日（水）午後2時～午後3時17分

【場 所】 花巻市役所石鳥谷総合支所 3階 大会議室

【出席者】 出席委員：11名

藤原けい子委員、伊藤浩司委員、浅沼総委員、藤館茂委員、
菅原教雄委員、大竹佐久子委員、高橋公男委員、菅原康之委員、
鎌田愛子委員、晴山淳子委員、板垣武美委員

欠席委員：4名

菅原紳委員、福山慎一委員、八重樫康治委員、伊藤成子委員、

市側出席者：11名

説明者

澤田建設部都市政策課長、寺林建設部都市政策課長補佐、
川村建設部都市政策課公共交通係長、佐藤建設部都市政策課
公共交通係主査

事務局（石鳥谷総合支所）

菅原総合支所長、佐藤地域振興課長、八重樫市民サービス課長、
小原地域支援監、伊藤地域振興課長補佐、新田地域づくり係
上席主査、菅原地域づくり係主査

【審議事項】

花巻市地域公共交通計画（素案）について（説明）

資料により説明、各委員が質問、意見を述べた。

【傍 聴】 会議を傍聴した者 0人

※ 会議での発言等は別紙顛末のとおり

1 開会

(佐藤地域振興課長)

これより、令和5年度花巻市石鳥谷地域協議会第3回会議を開会いたします。

初めに、本日の会議に菅原紳委員、八重樫康治委員、福山慎一委員、伊藤成子委員の4名の委員から出席できない旨の連絡がございましたのでお知らせいたします。

委員15名中11名過半数の出席でありますので、花巻市地域自治区設置条例第9条第2項の規定により、会議が成立しておりますことをご報告申し上げます。

2 挨拶

(菅原康之会長)

本日は、何かとお忙しいところ、令和5年度第3回会議にご出席頂きまして誠にありがとうございます。

前回1月10日の会議において、第2次花巻市まちづくり総合計画長期ビジョンの案について、市長からの諮問に対しまして原案に賛成する旨の答申を行ったところでございます。

本日の会議は、人口減少や少子高齢化が進行する中で、公共交通サービスの提供を確保するために、令和6年度から5年間を計画期間とする花巻市地域公共交通計画の素案について、市当局からご説明を頂き、委員各位のご意見等を賜りたいと思っております。

当局より予め資料の配布がございましたので、お目通しをいただいたことと存じますが、本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

3 説明

(菅原康之会長)

それでは、次第の3説明に移ります。事務局、説明者の紹介をお願いいたします。

(佐藤地域振興課長から市側出席者を紹介)

(佐藤地域振興課長)

この案件は、花巻市地域自治区設置条例第8条第2項第3号の規定に該当する案件であり、本日は花巻地域公共交通計画(素案)を委員の皆様にご説明し、質疑応答の上、意見をお聞きする意見聴取でございます。

当協議会として統一された意思表示を求めるものではございません。

(菅原康之会長)

それでは、花巻市地域公共交通計画(素案)について、担当の都市政策課から説明をお願いいたします。

(資料に基づき説明 説明者：澤田都市政策課長)

(菅原会長)

説明ありがとうございます。

ただいまの説明について、質問等ありましたら挙手をお願いいたします。

(板垣武美委員)

素案29ページに公共交通以外の移動手段の現況ということで、互助輸送についての説明がありました。この互助輸送の説明は31ページに課題等として公共交通以外の手段の活用が必要という認識が示されておりますし、43ページには基本目標の4ということで、地域が主体となった移動手段確保の取り組みを行えるように支援を検討しますと、少し奥歯に物が挟まったような記述だなどお聞きしておりましたが、更に45ページの体系図では、「k:地域住民による移動手段確保への支援」ここでは支援と言い切っていますが、53ページでは事業k-1ということで、地域における互助輸送への支援制度の検討とページを跨いで互助輸送の市の考え方がありますが、ここで市の考える地域というのは具体的にどういうものを指すのでしょうか。

(川村都市政策課公共交通係長)

本編資料の29ページに掲載してあります互助輸送は、公共交通機関の路線バス及びタクシー、予約乗合交通が使えないような地域で地域の足を確保するために、道路運送法上の許可登録を要しない輸送として主にボランティア団体、それから自治会など

が行う地域の助け合いで実施されるサービスとしております。無償で運行するものでしたので、道路運送法の許可登録を要しないこととなりますが、こちらの取り組みを地域の方で実施したいという申し出があった場合に、市として支援できる制度を創設していきたいと考えてございます。

この計画策定の段階では、具体的にどういった支援をするか、どういった費用の支援をするかは定めておりませんので、これから計画期間内で、どのような支援が必要なのか地域の方々とお話ししながら制度を構築していきたいと考えております。

地域の単位については、現在、福祉の事業でご近所サポーター事業という各地域で協議会を設置して行っている支援がありますので、そのような単位も考えられると思いますし、そのほかに、例えばコミュニティ会議の単位で何か移動支援を行いたいというお話があれば、その実現に向けて、何か良い支援が出来るかどうかを相談しながら進めていきたいと考えております。

(板垣武美委員)

この地域互助輸送への支援を検討するという部分で、今お話にありましたコミュニティ会議や地域の協議会に期待する役割と担う役割はありますか。

(川村都市政策課公共交通係長)

まだ制度の構築はこれからですので内容は検討していくこととなりますが、そもそも互助輸送は公共交通という位置付けではなく、地域の方々が移動手段の確保がそれぞれの地域の課題だと捉え、地域で移動手段を確保する際の取り組みが互助輸送というものになるかと思えます。

そのような方々や団体がありましたら支援を行っていくという形になりますので、コミュニティ会議や地域の協議会で取り組んで頂きたいなどの市として何かお示しするものは、今現時点ではない状況です。

(板垣武美委員)

33ページでは、上位関連計画として、総合計画について言及している部分が載っており、くらし分野2-2で「地域の助け合いによる取組の支援」とありますが、これは今お話のあった地域互助輸送と理解していいですか。

(川村都市政策課公共交通係長)

上位関連計画の記載の内容については、この長期ビジョンの作成の段階ではまだ互助輸送は議論されていない状況であり、ここで地域の助け合いによるボランティアというのが、本編資料の27ページの一番下段になりますが、「住民ボランティアによる生活支援事業」を指して計画に掲載している形です。

ただ、こちらの住民ボランティアの生活支援事業というものが、利用対象者が要支援の1・2、それから事業の対象者ということで、利用できる方がある程度制限されているような状況でしたので、この枠の対象とならない例えば免許返納の方を対象にして輸送するなどに取り組むのであれば、今回の互助輸送の制度により支援を検討していきたいと考えております。

(板垣武美委員)

先日、NHKのクローズアップ現代という番組の中で、全国の公共交通の取り組みに関する先進事例地の紹介がありました。私の住んでいるところも交通空白地域だと思っていますが、こういう地域の課題を解決していくためには、私はいわゆる新しい技術や考え方が必要なのだろうと素人考えながら思っています。

今、国の方で検討が始まったような印象ですが、ライドシェアへの対応や自動運転等も花巻市の方で検討するのかなという関心がありましたが、この素案の中ではどこにもこの2つの部分についての言及は見られないので、この地域互助輸送がそれに近いものかなというイメージがありましたのでお聞きしましたが、まだしっかり細かい部分までは決まってないようでしたので、本当はこの地域互助輸送サービスがもう少し具体的であれば、その導入のプロセスとか実務的な課題についてお聞きしようと思っていました。

そういうことにはなっていないようでしたので、これで質問は終わりますが、是非そういう部分にも力を入れて頂いて検討して欲しいと思います。

(澤田都市政策課長)

貴重なご意見大変ありがとうございます。

委員からございましたライドシェアと自動運転につきましては、まずライドシェアについては様々問題があると伺っていますが、全国的にはまだ事例が少ないところですので、推移を今後見てまいりたいと考えております。

自動運転については、専用道路を整備しないといけないとか、様々な問題がございます。全国でも何件か自動運転始まっておりますが、先進事例を参考にしながら、今後導入するような時期が来ましたら検討してまいりたいと考えております。

(菅原康之委員)

ほかにご質問、ご意見ある方いらっしゃいますか。

(伊藤浩司委員)

今回は移動手段に関連した説明だと思いますが、移動するということは必ず目的があるわけです。基幹路線とか空白地域に対しての交通手段の改善というのは、それは当然のことで、それは誰も反対することはないと思いますが、実際はもっと細かな地域のところ、先ほど板垣委員の発言もありましたが、私が子供の頃はいろんな地域で商店があり買い物ができたが、現在、河西や河東の奥の方は全くないという状況です。要するに、移動難民＝買い物難民でして、石鳥谷地域だったら「とくし丸」が八日市方面行っていますが、河東には全く来てない。来てもらえれば買い物難民も多少は解決するかもしれないが、石鳥谷地域には大きいスーパーが3つあり、薬局が結構ありますので、移動販売車が来ないのであれば、その人たちを連れてくればいいというのがこの互助輸送や交通輸送の計画だと思います。そこのところをもっと細かに検討していただければ有難いと思います。

デマンドタクシーはありますが1回400円であり、1,000円ほどの買い物をして、往復800円は買い物目的の人には高すぎるので、先程のコミュニティや各種団体の互助輸送が、恐らくかなり有効に効いてくるのではないかと思います。白タクのようなライドシェアは、確かに巷ではいろいろ問題点があると言われていますが、互助輸送の方でやる分にはそんなに大きな問題ではないと思います。

しかも、ある程度、固定した人を輸送するわけですから、そんなに難しい話じゃないと思うのですが、そこは検討して、地域の住民が衣食住、特に食の部分を実質させるようなことをもっと具体的に考えて頂ければ有難いと思いました。

(川村都市政策課公共交通係長)

現在、石鳥谷地域では、予約乗合交通が週3日運行しております。毎週火曜日、木曜日、金曜日の午前8時から午後5時までの運行をしているところです。スーパー

なども指定乗降場所に設定しておりましたので利用することは可能ですが、地域の細かいニーズをどう拾っていくかという部分では、互助輸送が活用出来るのかなと思っております。

ただ、互助輸送が広がってしまうと、今度はタクシー事業者の経営に影響があると考えておまして、本計画の中では、タクシー事業者や予約乗合交通、更には新たに互助輸送を加えて全ての交通手段が共存出来るように上手くバランスをとっていただくと考えております。

(菅原教雄委員)

何点かお聞きしたいのですが、互助輸送が今テーマになっていますが、具体的に花巻市内でこういう輸送形態をとっている所は、うろ覚えでは高木の辺りだったのかなと思っておりますが、コミュニティ単位でという話があるとすれば、私もコミュニティの関係者なので、そんなこともやらなければならないのかと少し驚いていましたのですが、現状でどういう実際にやっているところがあればご紹介いただきたいなと思います。

あと全く別の話ですが、以前に大船渡に勤務時に東日本大震災で沿岸の鐵路が被災を受けて、どうしようかという検討に借り出されたことがあり、鐵路の復活が結構な費用がかかるということで出来ないということで、最終的にBRTというバス、鉄道路線を道路にしてバス路線にしたというそういう経過があります。

ただ、その際はBRTありきの検討でありましたが、やはりそういう交通路線は、鐵路、陸路、バスにしても、やはり残さなければならないというそういう地域からの要望がありまして最終的に落ち着いたので、今回の交通計画も利用者が少ないが、やはり残しておかなきゃなんないだろうと思います。私の住まいは大瀬川ですが、かつて子供の頃には、石鳥谷駅から小屋場、そして県道13号線を北に志和へのバス路線が通っていた時代がありました。私自身も何回か利用はしたのですが、車の免許を取ると電車やバスを利用する機会がなくなりましたので、利用者をどうやって確保するかということと、デマンドタクシーの利用者と思いを一緒にして今後検討を進めないと上手く進んでいかないだろうなと思っていました。

最後の方は感想になりましたが、最初に話した互助輸送の実態がありましたらご紹介いただければと思います。

(川村都市政策課公共交通係長)

互助輸送をやられている地域があるかというご質問でしたが、本編資料の27ページの住民ボランティアによる生活支援事業の団体を掲載しております。委員の発言のとおり高松第3行政区において、この表の下から2番目の「ふるさと高松げんき村」という協議会を立ち上げまして、その協議会の中で要支援の1・2、それから事業対象者の方を輸送から始めたというところがございます。

その後にこちらの地域では、中山間地域直接支払制度を活用し、福祉の利用要件を満たさない方、例えば免許返納をした方々を対象に、付き添い支援という形で輸送を実施しているような事例がございます。

(菅原康之会長)

他にご質問ご意見ある方いらっしゃいませんか。

(板垣武美委員)

この本編の31ページに、課題の6、厳しい交通環境であるという意識を市民に認識してもらおうということを求めており、公共交通に対する意識を高めようということだと思いますが、具体的にどのように行う予定でしょうか。

(川村都市政策課公共交通係長)

今現在も公共交通に関する周知として、広報誌に年2回路線バスのことや予約乗合交通の方の記事を掲載しております。年々、減便や廃線というのが花巻市内でも続いておりまして、広報誌面では利用者の減少や運転手不足を理由に減便・廃線が続いているということを皆様に周知をしているところです。

収益悪化もひとつの大きな要因で減便廃線となっておりますので、交通事業者の現状について、改めてこのような機会を捉えて皆様にお知らせをして利用をしていただくようお願いしたいと考えてございます。

(菅原康之会長)

他にご質問ご意見ありませんか。

(鎌田愛子委員)

この間、近くの病院に行ったときに、おばあさん達の話が聞こえてきたんですが、1人がタクシーを呼ぼうとしたら、もうひとりの方が予約乗合タクシーがあるから一緒に行かないかっていう話をされてて、タクシーを呼ぼうとした方は予約乗合タクシーを知らなかったようなんです。

この資料を見ると、石鳥谷は予約乗合タクシーとかは使われておりますが、今度また新たな導入地域が出てくると思うので、いずれ皆さんがわかってくれるように、様々コマーシャルしたり、各地域でも交通安全とか交通に接している人たちからお年寄りにいろいろ情報を発信したりして、どんどん皆さんに使っていただくように情報を発信して欲しいと思いますのでお願いします。

(澤田都市政策課長)

新規に導入する花巻西部東部地域につきましては、まだどういう単位になるか決まっていますが、運行内容等のこちらの体制が整った段階で地域に入りまして、使っていただけるような方に参加してもらえば一番良いのですが、そういう方々に内容について説明をさせていただこうと考えております。

また、利用登録も当然必要になってきますので、併せてそれもお願いする形で説明会を開くことと考えております。

(菅原康之会長)

他にどなたかおりますか。

(菅原教雄委員)

この資料にフィーダー交通という言葉出てくるので少し調べたんですが、いわゆる支線の交通ということなので、どこかにフィーダー交通に関して書いてあると思うのですが、なんか年取ってくると横文字やカタカナが分かりにくいので、使わなくてもいいのかなと個人的に思いました。

(川村都市政策課公共交通係長)

大変分かりにくい表記で申し訳ございません。

本計画に国庫補助事業を活用して補助金の交付を受けながら、石鳥谷線や予約乗合交通を維持することを記載しておりましたが、補助の要件に、本計画にフィーダー系統であるということ的位置付けるよう国から指摘事項がありましたので、少し分かりにくい表現で大変恐縮ですが、このような記載をしたところでございます。

ご指摘いただいた通り、例えば下の方にでも注意書き等を追加したいと思います。

(菅原康之会長)

他にございませんか。

(伊藤浩司委員)

素案27ページに住民ボランティアによる生活支援とありますが、これは互助事業の話だと思うのですが、そこにある利用者数が7人とか一桁と書いています。これは年間でしょうか。

(川村都市政策課公共交通係長)

この人数は例えば一番上からいくと宮野目の方が7人の方が利用していて、その方が数回使っているということで、実利用者が7人ということになります。延べにするともた人数は増えると思いますが、実際に使っている方は7人ということになります。

(伊藤浩司委員)

最近、以前は高齢者に対して補助が出たものが介護認定になってなければならないというケースは結構ありまして、最近「フレイル」という概念がよく言われていますが、介護認定ではなくても車もなく1人で頑張っている方って結構いるんですよ。

そういう方が、結構エアポケットになってしまい支援が届かないことがあるのですがこれは交通も同じだと思います。そのため、そういう方に対しては高齢者福祉タクシー券が出ていますが、タクシー券の代わりに、例えば、ある一定の年代以上の介護認定されてない方でも200円にするとか、もし民業圧迫の可能性あるとすれば、タクシーをある程度お安くできるなどの検討すれば、もっと利用者が増えるのではないかと思います。

介護認定を受けていない高齢者の方に対して、何か支援を考えていただければ非常にありがたいと思いますのでよろしくお願いします。

(澤田都市政策課長)

貴重なご意見大変ありがとうございます。

確かにそういうことも考えられると思いますので、福祉担当部局に伝えて、何かいい策はないかっていうのを考えてまいります。

(晴山淳子委員)

この計画は素晴らしいと思いますが、公共交通ということで末端の利用者の立場から考えると、どれだけ伝わるかというのが問題になると思います。

利用するのは殆んど高齢者だと思いますが、先程予約乗合タクシーを知らない人の話が出ましたが、そういった人は多いと思いますし、例えば時間が合わないとか、行くときだけ乗っても帰りお迎えに来てくれる家族がいないために待つてなければならないなどのいろんな問題があると思います。

回覧板とか書物とかホームページとかってたくさん伝える手段はありますが、利用する人はそれを見ることが出来ない状態の方が多いいと思いますので、どのような方法で伝えるか、伝えるには家族の協力が必要だと思いいますし、路線バスにしてもそこまでも行けない方が利用する場合は、バス停まで送らなければならないと思いいますので、そういうバス停の検討、それから往復の時間帯等しっかり検討して頂きたいと思いいます。

(川村都市政策課公共交通係長)

ご意見ありがとうございます。

路線バスの運行時刻、それからバス停の設置場所等については運行事業者の岩手県交通と情報共有して、ご相談してまいりたいと思いいます。

まだ予約乗り合いバスの情報提供を十分にとのご意見でしたが、免許返納の方にチラシをお送りしておりましたし、今年はい予約乗合バスを使ったことがない方に試乗体験をして頂きたいと思いいまして、各コミュニティ会議さんに試乗体験会をやりませんかということでご案内を差し上げた経緯もございいます。

そういった取り組みを通じて、なるべく多くの方に知っていただけるように今後も努めて参りたいと思います。

(菅原康之会長)

他にございますか。

(晴山淳子委員)

空港とか駅とかの路線バスの関係で、近場をいつも歩いているのですが、乗り継ぎの乗り物がなくて、空港に着いてもウロウロするか、あるいは歩いている方も多く見られます。スーツケースを引いて空港に向かうのも見ておりますし、新花巻駅までについてもタクシーだけではなく、やはり路線バスもしっかりあった方がいいと思いますので、検討していただければと思います。多分、本数が少ないと思います。

(川村都市政策課公共交通係長)

ご意見ありがとうございます。

いわて花巻空港からの路線バスとして盛岡方面になりますが、花巻空港線という路線バスが花巻空港駅を経由して運行しておりまして、航空便の便数に合わせて毎月便数が増減するものになります。

ただ、運行している運行事業者さんの現状から申し上げますと、運転手がどんどん減っているような状況にございましたので、更に増便をするというのは、なかなか難しい状況にはあるのかなと感じてございます。

花巻空港から花巻駅までの観光の二次交通については、私共も課題であると捉えており本計画に記載してございましたが、令和7年度に大迫花巻線の路線経路を一部変更いたしまして、花巻空港を経由して花巻駅までを結ぶ案を計画しておりましたので、なるべく早い段階で実施できるようには検討してまいりたいと思います。

(澤田都市政策課長)

補足いたします。花巻空港駅につきましては、バス停が分かりにくいというお話を以前頂いておりましたので、来月中に駅舎内にバス停についてのご案内を分かりやすい、少しでも大きな看板を来月中には駅舎内に設置することで今考えてございます。

(菅原康之会長)

他にございますか。

なければ、本日の質疑をこの辺にしたいと思いますがよろしいでしょうか。

それでは、以上で次第の3、「花巻市地域公共交通計画(素案)について」を終了させていただきます。

4 閉会

(佐藤地域振興課長)

菅原会長ありがとうございました。

ここで次回の予定についてお知らせいたします。次回の会議については3月21日、木曜日午後2時から、今回と同じく石鳥谷総合支所3階大会議室で開催する予定としております。

内容については、今回ご意見を頂いた花巻地域公共交通計画の諮問に加え、花巻市公共施設マネジメント計画基本方針編について意見聴取を行うこととしております。

開催が確定しましたら開催通知を送付いたしますのでご出席くださるようお願い申し上げます。

以上をもちまして令和5年度花巻市石鳥谷地域協議会第3回会議を閉会いたします。

委員の皆様、大変お疲れ様でございました。